

## 2019 年度事業方針

これまで国内景気は緩やかに拡大を続けてきたが、米中貿易戦争や英国の欧州連合離脱等世界の不確実性リスクの高まりによって、景気の先行き不透明感は一段と高まっている。更には、10月には消費増税も予定されており、国内消費の減退が懸念される。

国内景気を背景に競輪界では5年連続で車券売上は回復基調を維持してきた。また、昨年度はG I 初の6日制ナイトー開催やF I 競合開催の発売時間の調整等、従来の考え方に捉われない新たな価値観による施策を進めており、こうした取り組みが車券売上にプラスの効果を付与した。しかしながら、他の公営競技に比べ売上の増加率は低調で、景気の先行きが不透明であることを踏まえれば、抜本的な改革を講じることが現下の競輪界において急務である。新たなお客様を多く獲得し、お客様に愛されることが競輪の維持発展には不可欠である。本会としては「柔軟かつスピード感を持った課題解決が競輪の成長に直結する」との信念のもと、持続的成長の実現に向けた取組み・改革には積極的に協力していくとともに、未来への潮流を見極め、時代の変化に合わせた攻めの施策を関係団体一丸となって推進していく。

本会が競輪界で果たすべき最も大切な責務は、興味あるレースをお客様に提供することである。レースの主演である選手が日頃培った技量を最大限に発揮し、勝利に向け白熱したレースを展開し、お客様を魅了することが選手の使命と考える。本年度もこの使命を果たすため、本会は会員が憂いなく競走に臨める環境を確保することを第一に事業の遂行にあたる。

選手の出場あっせんについては、需給バランスを勘案しつつ、適正な出場あっせんの維持確保に努める。競技における公正安全の確保については、競輪実施の基本となる適正走行の維持励行、関連諸規則の順守について指導徹底を図るとともに、競技規則全般の改正について関係団体と検証・検討を行う。会員の肖像権を活用した施策については、新たなお客様向けサービスを2019年度中に発足させる。組織の整備については、将来に亘り持続的かつ安定的な事業運営に向けた組織の在り方について検討を進める。これら諸事業の進捗状況については、各種研修会及び本会機関紙である「プロサイクリスト」等を通じ迅速かつ的確に会員に情報を伝達する。

以上が本年度の事業概要であるが、これらを推進するための原動力は会員の強い絆である。従って、本年度も会員との密なコミュニケーションを図りつつ事業運営を実施していく。

各課事業計画の詳細については、以下の通り。